

ビバリッジ ジャパンは、新たに「Liquid Food News by Beverage Japan (LFN)」を2024年早期に開始いたします。このLFNは、海外で発売された清涼飲料、乳業製品、アルコール飲料、液体食品等を幅広くピックアップし、情報をお届けいたします。

■中国で糖質カットの「ミロ」を発売

中国の雀巢(中国)有限公司(ネスレ)は、独自の減糖技術を活用したココア入り麦芽飲料「美緑(ミロ)」を発売する。同品では、原料の麦芽エキスに含まれる糖質を従来品比で最大30%削減できる酵素プロセスを利用したという。この技術は、すでに東南アジアの製品で試験的に導入されている。



■扁平ボトル入りワインの販売エリア拡大

豪州Accolade Wines社の「Banrock Station」は、リサイクルPETを100%使用した扁平ボトル入りのワインシリーズ。英国、豪州での発売に続き、新たにオランダで展開する。ボトルは重量63g・内容量750mlで、同社の丸型ガラスびんに比べて25%の省スペース化が図れるという。ラインアップは「Merlot」「Chardonnay」の2品。



■“カシャッサ”ベースのカクテル

ブラジルに蒸留所を構えるNovo Fogo社は、USDAの有機認証を取得したSOT缶入りのカクテル「Novo Fogo Brazilian Organic Cocktail」を発売した。サトウキビを原料とするブラジル原産の蒸留酒“カシャッサ”をベースにしたカクテルのカイピリーニャに炭酸を加えたもので、ラインアップは「Lime」「Passion Fruit」「Mango」の3品。いずれもアルコール分9%。1本あたりエネルギー150kcal、炭水化物12g、内容量12oz(約355ml)。



■機能系でフレーバー水を強化

オーストリアのVöslauer Mineralwasser社は、フレーバーウォーター人気を受け、ゼロカロリータイプのフレーバーウォーターのラインアップをさらに充実させている。定番フレーバーのラズベリー、レモン、オレンジ、ブラックカラントに加え、今春からは機能性成分を配合した「Vöslauer Plus」を追加した。ラインアップは、カフェインを配合したショウガ&レモン風味と、亜鉛を配合した桃&ライム風味の2品。ともに750ml PETボトル入り。



■チャイニーズウオツカブランドを立ち上げ

中国の岷州蒸留所は、初のウオツカブランド「嶺冽(LING-LIE)」の立ち上げを発表した。アルコール分40度。334層の連続式蒸留システムや竹炭濾過を利用した。

同社の蒸留所は2016年から5年の年月をかけて四川省邛崃市に建設された。世界の先進的な蒸留技術や多彩なオーク樽などを使用し、事業ビジョンである“チャイニーズウイスキーの可能性創造”に取り組んでいる。



■ボクサーと開発したカクテルを拡販

メキシコCasa Lumbre社の「VMC」は、テキーラベースの缶入りカクテル。世界的なプロボクサーのサウル・カネロ・アルバレス選手との提携により2022年にメキシコで誕生したブランドで、米国でメキシコ系アメリカ人をターゲットに販売される。テキーラはハリスコ州のブルーアガベを使用。



ラインアップは「Paloma」「Jamaica Hibiscus Cocktail」「Margarita」の3品。アルコール分5.5%。容器は355ml SOT缶で、「Margarita」以外は700mlの再封可能な缶も用意した。

■アルミ缶採用で環境対応をアピール

ブラジルのSocorro Bebidas社は、ミネラルウォーターにフルーツフレーバーを加えたカロリーゼロの「Acquíssima Sabor」を発売している。従来からPETボトルで展開してきたが、新たにCrown社との提携を拡大し、ブラジル国内でリサイクル率100%のアルミ飲料缶を採用して環境対応を訴求する。内容量350ml。



■フルーティーなハードコンブチャ

米国Boochcraft社の「Blueberry Ginger Ale」は、アルコール入りコンブチャの限定フレーバー。ベリー、ショウガ、ラベンダーを配合した甘酸っぱさが特徴という。USDAの有機認証取得。アルコール分7%。アーティストが容器デザインを手がける「Liquid Art Lab」シリーズの2023年第2弾製品で、秋には第3弾の「Pineapple Passion」を発売予定という。

